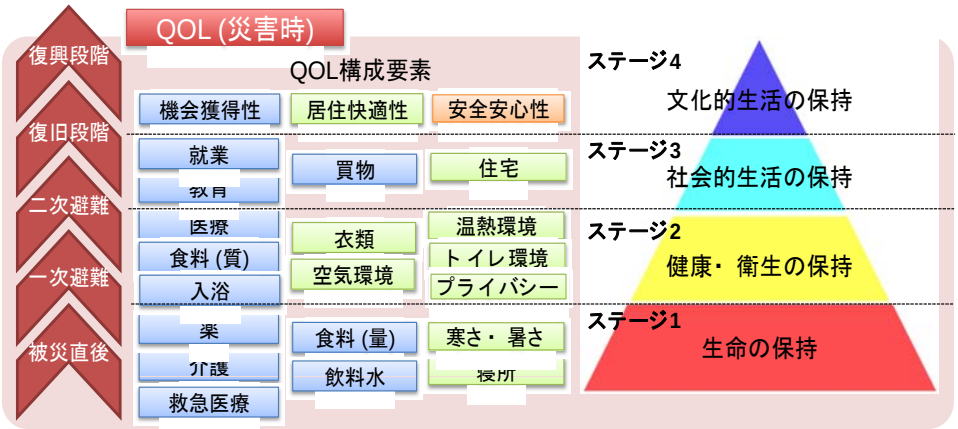
大規模災害後の生存・生活環境変化の時系列評価

杉本　賢二（すぎもと　けんじ）
工学部　都市デザイン工学科 特任講師

用途・応用分野：BCP、復旧・復興計画、インフラ整備

■研究概要

大規模自然災害では、発災直後の人的・物的被害だけでなく、住居やライフラインといった日常生活を支える施設やサービスが機能せず、被災者は劣悪な環境の中で長期間にわたり生活を余儀なくされる。本研究では、大規模自然災害後における被災者の生存・生活環境の時系列変化を、生活の質(Quality of Life; QOL)指標により表す「災害時QOL評価システム」を構築し、南海トラフ巨大地震後における被災者のQOL低下量と、それに基づく地域のレジリエンス性評価を行った。



■研究の特徴

① 発災から復旧までの被災者ニーズの時系列変化を、インフラ状況とQOL構成要素の充足・非充足判定により、移動による到達可能範囲を加味したQOLステージを算出

② 道路のミッシングリンクの解消やリダンダンシー確保といった他地域からのアクセス性を、QOLにより定量的・空間的・時間的に可視化

③ 長期間にわたり低QOLステージが続くレジリエンス性の低い地域において、災害前の事前対策や発災直後の重点的な支援の効果が定量的に評価できる

大阪工業大学　研究支援・社会連携センター
〒535-8585 大阪市旭区大宮 5-16-1 TEL：06-6954-4140 FAX：06-6954-4066　E-mail：OIT.Kenkyu@josho.ac.jp